

牛道春秋

駐在妻の欄

▼三月下旬の木曜日、中学一年の長男が学校に弁当箱を忘れて帰ってきました。▼私は、「まあそんなこともあるわな」と思い、明日は忘れないようにと注意しました。▼翌日の金曜日、長男は再び弁当箱を忘れてきました。▼私は「うーん。」と思いながらも月曜日は絶対忘れないようにと注意し、月曜日の朝にも「今日忘れたら、この家の敷居は跨がせない。」と脅して送り出しました。▼しかしその日の夕方、長男は三たび弁当箱を忘れて帰ってきました。▼堪忍袋の緒が切れた私は長男にカミナリを落とし、「今すぐ弁当箱を取りに戻れ！」と命令しました。▼すると夫が「まあまあまあ」としゃしゃり出てきて「そんなことでムキにならなくても」などとぬかし、ええ格好しいで長男の肩を持ってきました。▼それを聞いた私は、新喜劇の未知やすえの様にブチ切れ「あんたは黙ってなさい！大体、長男がこんなふうに育ったのは、あんたのせいだ！」と、何べん言っても下着は裏返しのまま洗濯機に入れる・最後に風呂に入っても窓を開けない・夜に洗濯機を回しても我慢できずに寝てしまう・食べ終わった茶碗を水に浸けない・小便を立っただままする夫にもカミナリを落としました。▼夫は新喜劇の島木譲二の様な頭を内場勝則の様にうなだれていました。▼そして翌日、長男は四たび弁当箱を忘れ、二度目のカミナリを受けたのち、自転車に乗って中学校に向かいました。▼夫は何も言いませんでした。